科目ナンバリング	U-LAS05 20010 LJ39						
授業科目名<英訳>	人文地理学各論Ⅰ（都市） Topics in Human Geography I(Urban Settlement)			担当者所属職名・氏名	人間・環境学研究科 准教授　久木元　美琴		
群	人文・社会科学科目群	分野(分類)	地域・文化(各論)			使用言語	日本語
旧群	A群	単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態	講義（対面授業科目）
開講年度・開講期	2026・前期	曜時限	木1	配当学年	全回生	対象学生	全学向

[授業の概要・目的]

この授業では、現代の都市地理学のなかでも、2000年代以降に発展してきた「保育・子育て支援の地理学」および「ケアの地理学」について扱う。保育をはじめとするケア・サービスの需給構造には地域差があり、都市における女性労働や家族規範とその変化、交通環境に規定された通勤・生活行動、供給主体の多様性の度合いといった要素が相互に作用する。こうした視点や方法について、具体的な研究事例を踏まえて理解できるようになる。さらに、これを踏まえたうえで、ケア労働力やケア・サービスの地理学を含む「ケアの地理学」について理解する。英語圏地理学で発展してきたケアの地理学の範囲、ケアの地理学が登場してきた背景、主に都市や子育てに関する最近の研究動向を知り、日本における適用可能性や課題について考えることができるようになる。

[到達目標]

都市地理学のなかでも新しいテーマ・領域である保育・子育て支援の地理学やケアの地理学の視点や方法、研究事例の学習を通じ、現代の都市的課題のメカニズムを地理学的視点から説明できるようになる。

[授業計画と内容]

受講生の理解状況や時事動向に応じて、順番やテーマを変更することがある。

第１回 概要説明、本授業の視点
第２回 保育をめぐる制度・資源・地理的諸相
第３回 都市の時空間的制約とケア
第４回 都市居住地構造の変化：「子育ての場」としての都心
第5回 ケア規範と空間：空間的組織化論
第6回 供給主体の多元化とその地理的影響
第7回 ジェントリフィケーション論と「両立」
第8回 保育の「多様な経済」と郊外
第9回 ケアの地理学の視点と理論的背景
第10回 ローカルなニーズ、ローカルな供給(1)：行政領域の視点から
第11回 ローカルなニーズ、ローカルな供給(2)：沖縄を事例に
第12回 ケアとモビリティ：「地方」の子育て環境について
第13回 ケア労働力をめぐる地理学
第14回 これからのケアの地理学
第15回 フィードバック（フィードバック期間中に行う）

[履修要件]

担当教員が担当する「人文地理学」を受講していることが望ましい。

[成績評価の方法・観点]

平常点（内容のまとまりごとに授業内で行われる小課題）40%
期末試験（一部の資料のみ持ち込み可。持ち込み可の資料については授業で告知する）60%。

人文地理学各論Ⅰ（都市）(2)へ続く↓↓↓

人文地理学各論Ⅰ（都市）(2)

[教科書]

久木元美琴 『保育・子育て支援の地理学』（明石書店、2016年）

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

予習：教科書の該当箇所を読み、関心事や疑問点を整理しておく。復習として授業内容について教科書や配布資料、ノートを見直す。ワークシートがある場合にはそれを作成する。

[その他（オフィスアワー等）]

履修希望者が収容上限を超えた場合には、履修制限を行う。とくに履修を希望する学生には事前課題による「教員推薦」を行う予定。

生成AIの使用制限: 課題や評価に関わる成果物のいかなる部分も、生成AIによって生成、作成、製作してはなりません。提出が求められるすべての課題は学生自身が作成したものでなければならず、生成 AI を使用して評価に使用される課題や成果物を作成することは厳格に禁止されています。ただし、自らの学習を補助するために、概念の探究を行うこと、説明を受けること、内容を翻訳すること、については、生成AIを使用することができます。使用する場合には、「京都大学の教育・学修におけるAIの利用について」のガイドラインを遵守し、誤情報やバイアス等のリスクが含まれることを念頭におき、根拠資料・一次情報の確認をすること。

[主要授業科目（学部・学科名）]

総合人間学部